

砂川遊水地の冬季における利活用状況について

札幌開発建設部 滝川河川事務所 工務課 ○小林 一馬
計画課 猪股 直紀
鈴木 応徳

砂川遊水地(砂川オアシスパーク)では「砂川地区かわまちづくり計画」に基づいて整備を行った。普段はウォーターレジャー等を楽しめる水辺空間と、地域の活性化を推進するため、年間を通して様々なイベント等を開催して利活用を行っている。その中で今回は砂川遊水地での冬季における利活用状況について報告する。

キーワード: 地域活性化、まちづくり、地域交流・振興

1. はじめに

河川敷地の占用については「河川敷地占用許可準則」(「河川敷地の占用許可について」H11.8.5 事務次官通達 以下「準則」という)が定められ、占用主体は原則として市町村などの公共性、公益性を有する者等とされてきた。しかし、営業活動を行う事業者等が河川敷地を利用できるようにすることにより、河川敷地を賑わいのある水辺空間等として積極的に活用したいという要望の高まりを受け、平成23年に準則が一部改正(「河川敷地占用許可準則の一部改正について」H23.3.8 河川局長通知)され、地域の合意を得ることができれば、営業活動を行う民間事業者等による河川敷地の占用が可能となった。(図-1)

クからゆめまちづくり協議会」(以下「協議会」という)において平成28年より様々な協議・検討を進め、令和2年11月11日北海道開発局長より特区に指定された。

本報告は、その過程や現在の冬季における利活用状況と課題、今後の事業展開等について紹介するものである。

2. 砂川遊水地の紹介

石狩川中流部の砂川市街地に隣接する砂川遊水地は、昭和62年に着工、平成7年に完成し、洪水調節施設として運用が開始された。(図-2)

周辺には整備されたパークゴルフ場やオートスポーツランドスナガワ等の公園緑地と併せて「砂川オアシスパーク」として地域に親しまれ、遊水地を周回できる管理用通路は散策やサイクリング等で日常的に市民に利用されている。

また、増毛山地を写し込んだ広々とした湖面が癒しの景観を形成し、釣りやウィンドサーフィン、水上バイク等のウォーターアクティビティも盛んな施設となっている。

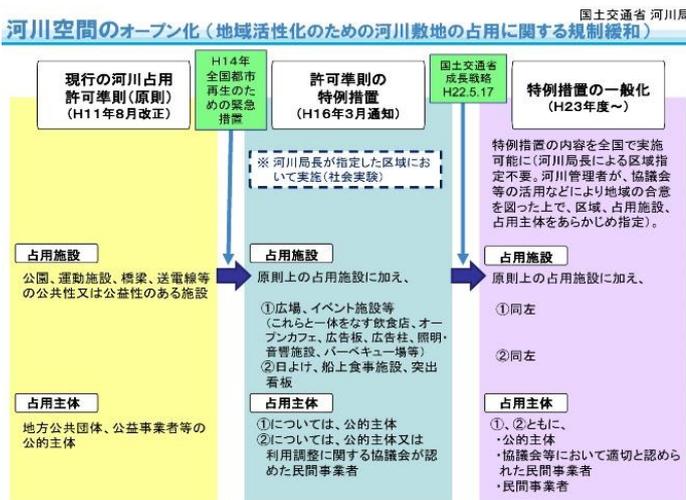


図-1 河川敷地許可準則の改正

砂川遊水地(砂川オアシスパーク)においても、地域の活性化を目的として、「都市・地域再生等利用区域」(以下「特区」という)の指定に向け、「オアシスパーク



図-2 砂川遊水地位置図

夏季には「石狩川下覧櫓川下り」や「THE祭」等の各種イベントがオアシスパーク内で開催され、なかでも多目的広場を活用した「ラブ・リバー砂川夏まつり&砂川納涼花火大会」には全道各地から約2万人の来客がある。冬季はワカサギ釣りやすながわ冬まつりを楽しめる場所として知られ、シーズン累計で約1万人の来客があり、こちらも大盛況であった。(写真-1)

一方、平成27年に砂川SAスマートICが開通し、さらに「北海道子どもの国」やふるさと名物「すながわスイーツ」で知名度が向上した砂川市内にあることも相まって、砂川遊水地管理棟の来館者数は年々増加傾向にあったが、令和元年度以降は新型コロナウイルス感染拡大防止による緊急事態宣言発出の影響で一時的に落ち込み、令和4年からは徐々に回復しつつある。(図-3)

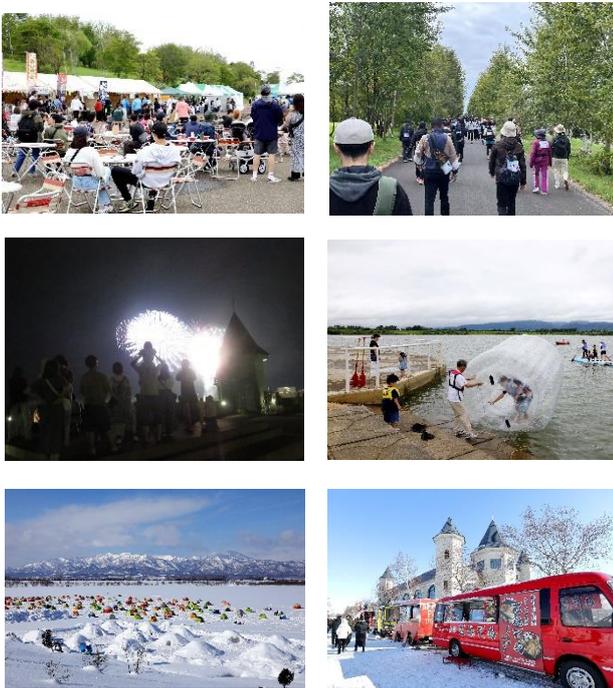


写真-1 砂川遊水地の利用状況



図-3 砂川遊水地管理棟の入館者数の推移 (H19~R6)

3. 砂川地区かわまちづくり計画

砂川地区かわまちづくり計画とは、砂川オアシスパーク(砂川遊水地)を活用するため、よりアウトドア・スポーツ等のアクティビティが楽しめる空間として親水護岸や管理用通路等の整備を行うとともに、特区指定を受

けることによって民間事業者等による営業活動を可能とし、砂川のスイーツや観光情報の発信拠点としても整備するものである。(図-4)

この計画に基づき、砂川市では各種イベントの開催、遊水地管理棟でのスイーツを軸とした物販・飲食提供・情報発信、アクティビティの充実、主にソフト施策を推進する。札幌開発建設部では令和元年より親水護岸や管理用通路、多目的広場の環境整備、主にハード施策を実施し、令和5年3月に事業が完了し、令和6年7月27日に完成式が行われた。(写真-2)



図-4 砂川地区かわまちづくり計画

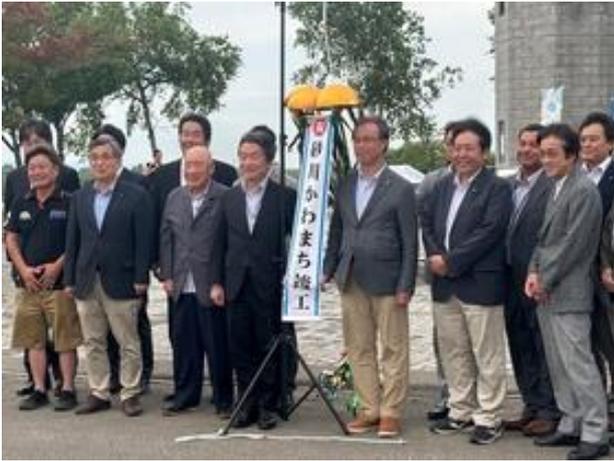


写真-2 砂川地区かわまちづくり完成式

4. 冬季における利活用状況

砂川遊水地の冬季イベントとしては、代表的なものにワカサギ釣りや砂川青年会議所が主体で開催するすながわ冬まつりやが挙げられる。

このほかにも、子供たちが自由に遊べるように、平成27年から砂川遊水地の斜面を利用したすべり台を1月下旬頃に作成している。滑り台で遊ぶための肥料袋で作ったそりを砂川遊水地管理棟から借りることができる。

① ワカサギ釣り

砂川遊水地では、毎日7時から17時まで基本は自由使用とし、一般の人がワカサギ釣りを楽しむことができる空間となっている。イベントとして開催するワカサギ釣りは複数あり、社会教育として行うものや学校で行う体験学習などが挙げられる。この2つは河川協力団体や関係機関が主体となって行っている。

これらのワカサギ釣りを開催するにはまず、気温や結氷状況にもよるが大体1月下旬頃に氷の厚さを測らなくてははけなく、25cm～30cmの厚さが必要である。

(写真-3)

氷の厚さを測った後は、その結果をもとに滝川河川事務所および関係者と協議のうえ、砂川遊水地の立ち入り禁止解除日を決めることになっている。令和6年は1月26日に測定を行い翌日の1月27日から2月21日まで自由使用とした。



写真-3 氷厚測定

(1) ジャリン子冬体験塾

ジャリン子冬体験塾とは、毎年2月の第2土曜日に行われ、受付は年明けから始まるが、定員が40名ほどで受付開始からわずか1週間ほどで予約が埋まった。このジャリン子冬体験塾で行うワカサギ釣りに年齢制限はないが小学3年生以下は保護者同伴での参加となっている。そのためほとんどが親子での参加となっている。

(2) 砂川小学校のワカサギ釣り体験学習

砂川小学校が授業として行うワカサギ釣り体験学習は、児童1人ずつ丁寧なレクチャーが必要なため、毎年1クラスごとに対応している。令和6年は4年生を対象にワカサギ釣り体験を行った。(写真-4)



写真-4 砂川小学校ワカサギ釣り体験

砂川遊水地でのワカサギ釣りがなぜ出来るのか、その理由は砂川遊水地では毎年砂川オアシスパーク高度利用研究会が砂川観光協会から補助金をもらい、西網走漁業協同組合からワカサギの受精卵を1千万粒購入し、4月の下旬に放流しているからである。孵化するときだけ網をかけてほかの魚に食べられるのを防ぎ、孵化して成長した7月に網を撤去して砂川遊水地に放っている。これらの成果もあり、ワカサギ釣りが砂川遊水地の冬季イベントの中で高い人気を誇っている。

② すながわ冬まつり

以前はすながわ「冬のフェスティバル」として30年以上前から親しまれていたが、平成19年年を最後に中止となってしまっていた。しかし、砂川青年会議所のもとで「子供のころに楽しんだ冬のイベントを復活させたい」との思いから令和6年に実現した。

すながわ冬まつりでは、先ほど説明したワカサギ釣りのほか、仮装滑り台コンテスト、アイスカルーセル、滑り台、かまくら、スノーラフティングといったイベントがあり、キッチンカーも8台来ている。(写真-5)



写真-5 すながわ冬まつり



写真-7 アイスカルーセル

この日の入館者数は3141名となっていて、砂川遊水地のイベントとしては大盛況であった。

(1) 仮装滑り台コンテスト

仮装滑り台コンテストとは、思い思いの仮装を行いながら雪山を滑走し、滑走時のパフォーマンスや会場の雰囲気にて採点を行い優勝者を決定するイベントである。悔しくも優勝はできなかったが、令和6年は滝川河川事務所からも遊水地マンとして参加している。(写真-6)



写真-6 遊水地マン

(2) ワカサギ釣り体験

すながわ冬まつりでのワカサギ釣り体験は他のイベントのように事前に受付ができるわけではなく当日の受付のみとなっており、すながわ冬まつりが開始されるとすぐに人気殺到で、受付ができなくなるほど大変人気なイベントであった。

(3) アイスカルーセル

アイスカルーセルとは、氷のメリーゴーランドと呼ばれ、厚く氷結した氷を円状に切り出し回転させるものである。回転するアイスカルーセルに座り、ゆったり流れる景色を見たり、寝転んで空が回転する様を見て思い思いに楽しむことができるイベントとなっている。(写真-7)

(4) スノーラフティング

スノーラフティングとは、スノーモービルに引っ張られたラフティングボートに乗って、砂川遊水地の多目的広場を疾走するというスリル満点なイベントとなっている。(写真-8)



写真-8 スノーラフティング

これらのすべり台作りやアイスカルーセル作り、スノーラフティングは、河川協力団体や関係機関の協力を得て安全管理を徹底し、実現しているところである。

(5) キッチンカーによる出店

キッチンカーの多くは砂川市の近隣の新十津川町や赤平市などから集まっている。やきとりやジンギスカンなどを販売しており、砂川市の有名なアップルパイのお店もキッチンカーで出店するなど街の一大イベントとなっている。

キッチンカー以外にも砂川遊水地管理棟の中での飲食物販売もあり、おにぎりやパンの売店、砂川手打ちそば愛好会では手打ちそばを販売し、観光協会ではポークチャップまんの販売が行われた。(写真-9)



写真-9 キッチンカーと管理棟内飲食物販売店

5. まとめ

令和2年11月11日北海道開発局長より「都市・地域再生等利用区域」に指定され、砂川遊水地における民間事業者等による営業活動が可能となった。

また、かわまちづくりのハード整備は令和元年より始まり、親水護岸や管理用通路、多目的広場の環境整備等が進められ、令和5年3月に事業を完了し、令和6年7月27日に完成式を行った。

ワカサギ釣りは、冬季イベントの中でも高い人気を誇り、数多く種類がある。子供から大人まで安定した集客実績があるためこれからも一層力を入れていくが近年の気候変動に伴い結氷の厚さにムラが生じているため、安全確保についてもより一層力を入れていくことが大切である。

すながわ冬まつりは、平成19年を最後に中止となったすながわ冬のフェスティバルを砂川青年会議所のもとで復活させたイベントで、ワカサギ釣り、仮装滑り台コンテスト、アイスカルーセル、滑り台、かまくら、スノーラフティングといったイベント内容があり、砂川市近隣の市町からも多くのキッチンカーが集まっている。

砂川遊水地は防災施設であるが、地域の賑わいを応援するためにも、今後も1年を通して地域に親しまれる水辺空間として利活用されるよう、砂川市や関係団体と連携していく。